

ち。「内輪の研究会」を学会という名のもとで大きな時間を割いてやっている

- コンビナーの意図で講演者が決められるという形式は全学会員の「自由な研究発表の場」であるべき学会の姿をゆがめる。招待講演を廃止すること（外国人など一部を除いて）、申込者を平等に扱うことを提案する
- セッションのテーマが限定される
- 専門家のみ集まりになりがち。ウェイトを減らすか、範囲を広くするべき
- 分科会の性格が不明。専門グループの発表なのか夏期大学なのか？
- 職場の都合など、春の方が出席しやすい会員も少なくないから、年2回の大会のいずれでも一般口頭発表の機会を保証すべき
- 学生の発表の練習という教育的観点からも、なるべく多くの人に口頭発表の機会を与える従来の方式が好ましい
- 自分の研究に関連するようなテーマがほとんどなかった

- 目的とした討論の活発化がまだ充分でない
- もっと時間に余裕をもってプログラムをくんでほしい

#### 設問5：その他の意見

- 今回のシンポジウムは良かった（3）
- スクリーンが小さく後ろからは見えなかった（3）
- ポスター会場の近くに、談話室（休憩スペース：イスが置いてあるだけでも良い）があるともっと良かった（2）
- ポスター掲示場所の大きさを、cm単位で、大会プログラム（予稿集と「天気」）に明記しておいてほしい
- ベストポスター賞の投票締切が早すぎて、議論が盛り上がっているうちに締め切り時刻が過ぎてしまう
- 名札について。参加費等前納者分については、名前や所属等の項目を予め印字しておいてほしい
- メールを読めるよう端末を用意してほしい
- 気象情報の工学的利用というテーマは気象学会としては扱わないのだろうか？

## ==== 支部だより =====

### 中部支部第5回公開気象講座のお知らせ

日本気象学会中部支部では気象に興味を持っている一般の方を対象に公開気象講座を行っており、5回目の今年は「気象災害を防ぐ」というテーマで行います。

日時：1998年8月27日（木） 10：00～16：00

場所：名古屋国際会議場141, 142会議室(240名収容)  
名古屋市熱田区熱田西町1-1  
TEL：052-683-7711

#### 開講の辞

周東健三（中部支部長，名古屋地方気象台長）

1. 自治体における防災活動 10：10～11：10  
織田善夫（愛知県）
2. 防災気象の現状と将来 11：10～12：00  
日野 修（名古屋地方気象台）

3. 集中豪雨のメカニズム 13：00～14：00  
坪木和久（名古屋大学）
4. ドップラーレーダによる雨と風の監視 14：00～15：00  
石原正仁（関西航空地方気象台）
5. 質問コーナー 15：00～16：00

参加費：900円（テキスト代500円を含む）

#### 問い合わせ先：

名古屋市千種区日和町2-18 名古屋地方気象台予報課  
日野 修 TEL：052-751-5125  
名古屋市千種区不老町名古屋大学大気水圏科学研究所  
永尾一平 TEL：052-789-3484  
e-mail：nagao@ihas.nagoya-u.ac.jp